

ベンチャー活動（アワード）報告会【報告書】

県副コミ 清水秀彦

- 1 日時 2008年12月13日（日）13:00～16:00 3時間
- 2 場所 神戸市立兵庫県勤労市民センター 2階講習室（72名用会議室）
- 3 参加者 74名  
     ベンチャースカウト 38名（内発表者 7名、ブラックメンバー 5名含む）  
     指導者 25名  
     スタッフ 11名（スカウト委員会 6名、県（副）コミ 5名）
- 4 ねらい 本年度はベンチャー活動（アワード）報告会と名称を改め、アワード取得に関するものをはじめ各種活動（行事）の紹介を通じて、原隊活動のヒントと行動力を参加者が得ようとするものです。併せて報告会の運営などはブラック、ユース委員会をはじめスカウト委員会、コミッショナーグループが一体となって活動することをねらっています。
- 5 総評 県下のほとんどの地区から多数の参加があり、会場が狭く感じるほどの盛況で立派な報告会となった。発表内容では進級に対する真摯な姿勢、ベンチャー活動が持つ自主性などが報告され大いに親近感を持ち今後の参考となった。なかでも本年度は大阪連盟から鹽井さんにお越し頂き、第6回 APR ユースフォーラム（マレーシアにて10月に開催）に関する生きた報告もまじえ、グローバル活動であるスカウト運動を実感できた。
- 6 運営 報告会の総合進行をスカウト委員会が受け持ち、活動報告をユース委員会が、またセレモニーは VLAC が担当した。
- 7 内容 今年度はアワード（3件）、7NV中止決定後に県連で開催されたベンチャーひょうご2009（1件）、APR（アジアパシフィック地域）のフォーラム（1件）、併せて兵庫県下のベンチャー、ローバー活動（3件）が報告された。

#	発表者	発表
①	中島 勇人	3つのアワード
②	武田 直樹	富士への軌跡 -ツリーハウス-
③	赤坂 達也	パワーポイントの魅力
④	国府田 華子	ベンチャーひょうご2009に参加して
⑤	鯛谷 昭史	平成21年度ユースフォーラムについて
⑥	鹽井 晴香	第6回 APR ユースフォーラム（マレーシア開催）に参加して
⑦	白川 龍彦	兵庫県下のユース活動について
⑧	大田 雅之	兵庫県下の VLAC 活動について

- 8 内容についての講評（発表順：スカウト委員会が中心となって以下の講評を行った。）
  - ① ひとことで言って、題材が新鮮であった。私にとって例えば“カップヌードル”の話は数十年前から承知していることであったが、作る際のお湯の温度への考察、あるいはその手段をベンチャーらしく表現したことで、新鮮で若い人の感性を肌で感じる事ができた。また3

つのアワード挑戦により、ボーイスカウト運動が求めている、自発活動、根気、自立などを体験、また何度も失敗した後、富士スカウトになった過程が理解できた。これらのことを通じて「これからは人間として中身を磨いていきたい」とまとめた言葉に拍手を送りたい。(Yo スカウト委員)

- ② 原隊でのグループプロジェクトとして「ツリーハウス製作とキャンプ場整備」に挑戦した。企画計画段階できちっとスケジュールリングがなされており、財源についても助成金などを利用するプランがしっかりしていた。実際の製作では、電動工具など不慣れでなじみのない道具とも活動の後半、ベッドなども作れるようになりその習熟ぶりを垣間見ることができた。また「夢は努力することにより現実となる」ということを理解するうえで、すばらしい発表であった。(Ya スカウト委員)
- ③ 発表内容が端的によくまとめられていた。特にアワード取得に関する内容にとどまらず目的・目標の紹介など基本的なことから紹介され後輩への良きアドバイスを盛り込んでいた。また一般社会で認められている資格を取得することとスカウト活動が同時進行しているといった解りやすい例を示し、今後の社会活動にもスカウト活動にも大いに役立つ内容であった。(I スカウト委員)
- ④ インフルエンザの影響で中止となった日本ベンチャーではあったが、その代替大会としてひょうごベンチャー2009 が開催され参加した。サバイバルキャンプを含む多彩な活動を経験できるとあって大いに期待したが、出発前にはキャンプ生活を不安にさせる情報もあり、気をもんだ様子が素直に紹介されていた。大会期間中、都市生活では普通にあって当然の電気やガスといったインフラと距離を置くこととなったが、そのことで貴重な経験ができたことを写真と口述でじょうずに表現していた。大変共感を得る内容であった。まれな経験ができて今後の活動への応用が大いに期待される。(S スカウト委員)
- ⑤ 本年は日本連盟で全国ユースフォーラム（7月）が開催され14県連、18名のユースが集った。テーマは“Scouts~Capital for Peace”で様々な意見交換がなされた。（またそれらの集約された意見を日本の代表ユースがマレーシアで発表することとなる。）今回はその日本でのユースフォーラムの報告が京都で開催されたが、兵庫連盟から3名のユースが参加した。鯛谷さんは、その実行委員の一人として意見集約など事前準備が勉強になった点の紹介があった。日本連盟教育本部委員の平塚さんのお話などもまじえ、この日本の大きさや、スカウト活動の幅なども理解でき更なる活動充実を図る必要性も感じたことを紹介された。また各地区選出のユース委員が年度計画に沿って活動されていることなどの紹介であったが、現在のしくみができた初年度としては順調である。(Shi)
- ⑥ 2009年10月、マレーシアで開催されたAPRユースフォーラムには27カ国、109名のユースが集った。海外のフォーラムということで言葉に対する不安があったが同じ仲間であるとの認識と英語から逃げず話そうとする姿勢で挑戦した。インターナショナルナイトでは色々な文化を伝えあうフォーラムならではの活動であるが、他国に負けず日本としてもしっかり

PR できた。その様な充実した時間を過ごせたということをもっと多くのスカウト仲間に伝える必要性を感じおり本日も寄せてもらったとのこと。

またユーラム期間中に感じたことは事前勉強の大切さ、気分の持ち方の重要性であるが、諸外国のユースの時間に対するルーズには驚かされた。ただそれもひとつの文化であることを否が応でも感じた。

今回、一連の機会に挑戦するきっかけは、富士挑戦キャンプとのことであるが、少しでもスカウト活動を広めたいと思っているなど、個人のポリシーとしてしっかりもって発表に当たった。発表内容に限らずその点も素晴らしかった。(Sa スカウト委員)

⑦ 兵庫県下のユース活動の現状の紹介と新たなユースの募集があった。当委員会では3つのグループが活動していることと県連常設委員会に参画していることが紹介された。なかでもユース活動として日連の報告会への参加、県連60周年行事への参画など具体的な活動を通じて仲間意識の高揚なども図りながら進めていること、またユース年代の活動への参画の呼びかけもあり、更なる活動充実が図られること目指していることなどの紹介があった。(Shi)

⑧ VLAC 活動の現状報告がなされた。VLAC とは、Venture Lively Action Conference を略したもので、アワード報告会など県下のメンバーと協力して活動をしている。本日もセレモニー関係の担当をしているが、様々な県下行事の役割をになったりユース委員会との協働を図っている。これからは可能であれば独自のプログラム展開を図りたいと思っているとのことであった。(Shi)

## 9 ベンチャー活動（アワード）報告会を終えて

今般の報告会はスカウト委員会が主導し、ユース委員会ならびに VLAC メンバーが運営にあたった。それぞれが参加者とともに楽しむことができたが、ひとつの目標に向かって各人が役割分担に従い活動できたことで本来のスカウト活動のねらいが達成できた。それもひとえに参加された皆さんがこの運動を理解し少しでもこの報告会を良くしようと思う気持ちからきていた。

またスカウト活動が原隊（団）に始まり⇒地区⇒県連⇒日連⇒APR⇒報告会（日本）の流れにあって元来持っているグローバルな運動であることを実感することができた。

今後もこのような大きな活動の場で発表したり聴議したりする体験を少しでも多くのスカウトに持ってもらいたいと思っている。とはいえなんといっても原隊活動の充実がその基本にあることも心しなければならぬ。現時点では、活動単位の縮小もあってその時期の到来を待つが、それまでは県連で開催することが必要であろう。

最後に発表者の皆さんには準備などご苦労が多かったことと思いますが、私たちに役に立つことを教えて頂きました。ありがとうございました。

弥栄